

社内に蓄積されたプロジェクトのデータを 活用するシステムの検討

キャノンイメージングシステムズ株式会社 鈴木 元

プロジェクト運営における問題点

プロジェクトの運営状況に問題がないかどうかを人手でチェックしている

プロジェクトの数が多く負担であるうえ、悪化の兆候を早期発見できず、対処が遅れてしまう場合がある

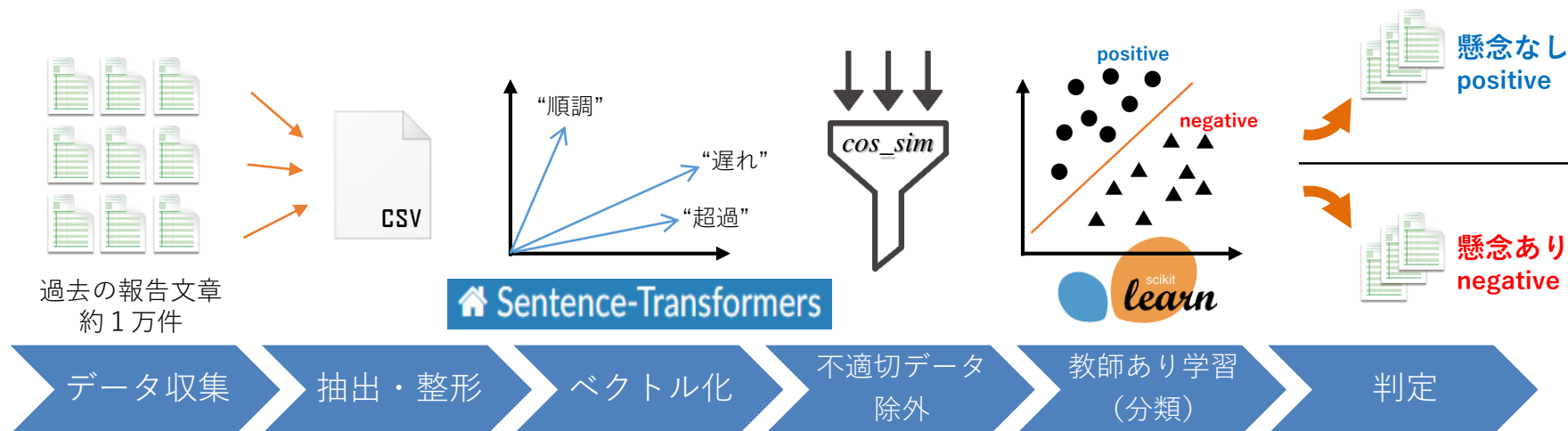
手法・ツールの適用による解決

プロジェクトの報告文章を自然言語処理にて感情分析し、懸念の有無を判定する

現場のフィードバックを取り入れてサイクルを回し、改善・進化が可能なシステムを構築する

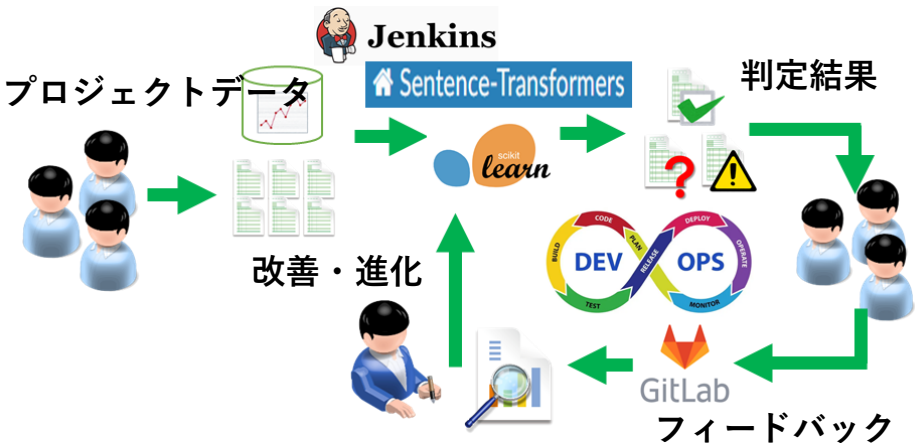
自然言語処理による感情分析

Sentence Transformersで文章をベクトル化し教師あり学習(ロジスティック回帰)で分類



運用基盤の構築

結果提供に加え改善・進化が可能な基盤を構築



懸念判定と再学習を定期実行(CI/CD)
現場フィードバックを受付けてロジックの追加・修正を実施、モデルに反映 (DevOps)

導入効果

人手で約14時間かかっていたチェックを本システムでは約10分で完了

人の判定結果を正として正解率9割以上

今後の展開

現在のプロジェクト状況は判断できているが、予兆(この先に悪化が起きる可能性)の検知には至っていない
他のデータも分析に組入れ、予兆検知などのより高度な判断を行えるシステムに発展させたい